

# 「10年後の東京」の概要

## 1 水と緑の回廊に包まれた、美しいまち東京を復活させる

○ 東京の成長過程で失われた、水と緑に囲まれた都市空間を再生するとともに、美しい都市景観を創出し、東京の価値を更に高める。

	10年後の東京の姿	これからの政策展開
(1) 緑に囲まれ、水辺と共存した新たな都市空間を創出する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多摩川・荒川とその内側にある緑や水辺空間により、東京が緑によって環状に包み込まれている。また、都心部の緑の拠点（700ha）が街路樹等によって結ばれ、緑のつながりが形成されている。</li> <li>○ 企業や都民が一体となってあらゆる都市空間で緑化が進んでいる。</li> <li>○ 川や海からの眺望が美しい、賑わいあふれる水辺空間が形成されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨海部に「海の森（仮称）」を整備し、そこから都心部の緑の拠点（700ha）等を幹線道路の街路樹で結ぶ「グリーンロード・ネットワーク」を形成し、風の道を創出</li> <li>・ 屋上・壁面緑化等あらゆる都市空間のすきまの緑化、全公立小中学校の芝生化等で1,000haの新たな緑を創出</li> <li>・ 新たな募金の創設など民間事業者や都民を巻き込んだ「緑のムーブメント」を東京全体で展開</li> <li>・ 水辺に建物の顔に向けた街並みの整備、羽田空港と都心を結ぶ舟運ネットワークの形成</li> </ul>
(2) 無電柱化を緑のネットワークと連携して推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 面的な無電柱化が都心部を中心に広がるとともに、センター・コア・エリア内の都道で無電柱化が完了している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨海地域、六本木・赤坂・麻布、秋葉原・神田地域等の都心部で面的な無電柱化を推進し現在の約2倍に拡大</li> <li>・ センター・コア・エリア内の都道について、無電柱化を完了</li> </ul>
(3) 美しい都市景観を創出し、東京の価値を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 都市の記憶を次世代に継承する美しい都市景観を創出し、成熟した都市としての東京の価値が高まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨海部など水辺周辺の地域を景観形成特別地区に指定し、建物の色彩や高さ等の規制により水辺からの眺望を確保</li> <li>・ 屋外広告物の禁止区域の設定や色彩及び光源の規制等により、統一感のある街並みを形成</li> </ul>

## 2 三環状道路により東京が生まれ変わる

○ 三環状道路の整備等により、東京の最大の弱点である渋滞を解消し、国際競争力を高めるとともに、交通インフラのゆとりを活かし、快適で利便性の高い都市を実現する。

	10年後の東京の姿	これからの政策展開
(1) 渋滞のない効率的で利便性の高い都市を実現する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三環状道路が全体で約9割整備され、渋滞が解消されるとともに、自動車からのCO<sub>2</sub>排出も大幅に削減されている。</li> <li>○ 空港・港湾機能の強化と併せ、陸・海・空を結ぶネットワーク機能が更に強化され、国際競争力が向上している。</li> <li>○ 多摩地域が首都圏の中核拠点として発展している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三環状道路及び区部環状道路や多摩南北道路など幹線道路の整備促進、利用促進のための高速料金体系見直しを強く国に働きかけ</li> <li>・ 羽田空港の再拡張・国際化、東京港の機能強化、京急蒲田駅の改良等による空港アクセス向上、物流ボトルネック解消によるネットワーク効果向上</li> <li>・ 圏央道開通や横田基地の軍民共用化を契機とした、多摩の産業拠点としての地位向上（多摩シリコンバレー）</li> </ul>
(2) 交通インフラのゆとりを活かし、快適で環境に負荷をかけない都市生活を実現する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 交通インフラにゆとりができ、バスの定時性・速達性が確保されるなど、誰もが快適に利用でき、環境負荷の少ない交通ネットワークが完成している。</li> <li>○ 駅を中心としたコンパクトなまちづくりが進み、高齢者にやさしい自動車に頼らないまちとなっている。</li> <li>○ 社会資本が戦略的に維持・管理され、長寿命化している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渋滞解消によるバス交通の復権、ITS技術の活用、低公害車の普及、自転車道の整備による自転車の活用</li> <li>・ 駅周辺への多様な都市機能の集積、交流拠点となるパブリックスペースの整備</li> <li>・ 社会資本を予防保全型管理へ転換、住宅の品質確保・長寿命化の促進</li> </ul>

### 3 世界で最も環境負荷の少ない都市を実現する

○ 地球温暖化に代表される世界的な環境危機に対して、最先端の省エネルギー技術などを駆使して、世界で最も環境負荷の少ない都市を実現するとともに、その成果をアジアなど世界に発信・還元していく。

	10年後の東京の姿	これからの政策展開
(1) 東京独自の先進的な環境政策を展開する	○ 独自の東京発エネルギー戦略を都市政策として進めていくことで、世界で最も環境負荷の少ない先進的な環境都市となっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー政策を都市政策の一環として捉え、都市づくりと連動したエネルギーの効率的利用の浸透</li> <li>需要地の近くにエネルギー供給地を設ける地域分散型供給システムの普及</li> <li>優れた環境技術の開発促進や子どもに対する環境学習の推進など、都自らの率先行動を起爆剤とした環境負荷軽減の取組を都民や民間とともに展開</li> </ul>
(2) 世界に先んじた「カーボンマイナス東京10年プロジェクト」を推進する	○ 2020年までに2000年比25%のCO <sub>2</sub> 排出削減を目標に、最先端の環境技術を駆使しながら、カーボンマイナスプロジェクトを東京全体で展開している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーの積極導入、ヒートポンプやコージェネ等の普及・促進、都心エリアでの集中的なヒートアイランド対策</li> <li>様々な環境技術のアジア各都市への普及</li> <li>都庁に「カーボンマイナス都市づくり推進本部」の設置と「地球温暖化対策推進基金」の創設</li> </ul>
(3) 安全でおいしい水の供給と水資源の活用を推進する	○ 安全でおいしい水を、子どもから大人までが身近に感じ、味わうとともに、下水再生水が貴重な資源として都市環境の向上に活用されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利根川水系の高度浄水処理100%達成、公立小学校の直結給水化推進</li> <li>下水再生水の水質向上、まちづくりと連動した再生水の導入</li> </ul>
(4) 廃棄物の発生抑制・リユース・リサイクルの取組を推進する	○ 廃棄物の発生抑制・リユースの意識が広く社会に浸透し、多様なリサイクルシステムが構築されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>サーマルリサイクル（熱回収）等多様なリサイクルの推進</li> <li>ICタグを活用した廃棄物の流れの透明化、廃棄物処理業者の第三者評価による優良事業者の育成、スーパーエコタウン事業の展開</li> </ul>

### 4 災害に強い都市をつくり、首都東京の信用を高める

○ 東京の宿命的課題である震災対策に集中的に取り組むとともに、最先端技術によるテロ対策を進め、首都東京の国際的な評価や信用力を大幅に向上させ、危機に強い都市を将来に継承していく。

	10年後の東京の姿	これからの政策展開
(1) 震災対策に集中的に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>最先端の耐震技術を活用して、建物や道路等都市施設の震災対策を推進し、国際的な評価や信用力が大幅に向上している。</li> <li>都市機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策が確立されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災上重要性の高い、緊急輸送道路沿道の建物、小中学校、病院等を100%耐震化</li> <li>被害想定半減を目指し、都内住宅の90%以上を耐震化</li> <li>公園、未利用地、水路などを活用した防災ネットワークの形成</li> <li>災害情報の瞬時伝達やロボット技術等を活用した救出・救助活動</li> <li>都庁や企業のBCP（事業継続計画）を策定</li> </ul>
(2) 最先端技術を駆使した高精度でスマートなテロ対策を実現する	○ より精度の高いスムーズな危険物探知システム等を導入し、オリンピック開催都市として、住み訪れる人の安全・安心を確保している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>最先端技術を駆使した、精度が高くスムーズなテロ対策の実施</li> </ul>

## 5 世界に先駆けて超高齢社会の都市モデルを創造する

○ 世界に先駆けて超高齢社会を経験する東京で、活力ある高齢者像を新たに生み出すとともに、誰もが安心して暮らせる都市を実現する。

	10年後の東京の姿	これからの政策展開
(1) 高齢者が社会の様々な場面で活躍し、超高齢社会を活性化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療・福祉分野の最先端の研究成果等を活かし、高齢者が地域において健康で自立した生活を営んでいる。</li> <li>○ 高齢者が経験や能力を活かし、多様な分野で社会参加することで、社会を活性化する存在へと高齢者像を一新している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>アルツハイマー病の予防・治療法開発</b>や、<b>最先端技術を活用した見守り</b>により在宅介護の負担を軽減</li> <li>・ 起業、アジアへの貢献等、意欲ある高齢者の多様な活動機会を創出</li> </ul>
(2) 誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年齢、障害の有無、国籍の違い等にかかわらず、誰もが安心して暮らせる地域社会が実現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業集積の強みを活かし、<b>新たに3万人以上の障害者雇用を創出</b></li> <li>・ 多様な保育サービスの競い合いにより、<b>待機児童5千人を解消</b></li> <li>・ 防犯ボランティアとIT技術との連携による地域防犯力の向上</li> </ul>
(3) 生涯にわたって健康に過ごせ、質の高い医療を受けられる環境を創出する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職場や地域で健康を見守る人材の活躍で、体と心の異変の早期発見・早期治療が進むとともに、IT技術の活用等により救急医療基盤が更に充実している。</li> <li>○ 実践重視の人材育成に取り組むことにより、患者中心の医療を担う、臨床能力の高い医師が様々な診療科で活躍している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲートキーパー等による身近な場所での見守り体制の整備、新設の「<b>福祉・健康安心基金</b>」を活用してがん等の診断法・治療法を研究・開発</li> <li>・ 質の高い医療を提供するため、「<b>都立病院医師アカデミー（仮称）</b>」を設置、<b>専門職大学院「メディカルスクール」の実現に向けて検討</b></li> </ul>

## 6 都市の魅力や産業力で東京のプレゼンスを確立する

○ 伝統と最先端とが織り成す東京の魅力的な文化を発信するとともに、新たな産業を戦略的に育成し、東京の価値を高める。

	10年後の東京の姿	これからの政策展開
(1) 東京の新たな文化を創造・発信し、国際交流を展開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 東京ならではの文化の創造・発信が活発に行われ、世界における文化面のプレゼンスを確立し、アジアの文化の中心地となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>都独自の「スポーツ・文化振興交流基金」を創設</b>し、オリンピック招致に向けた、大規模な文化プロジェクトや国際交流を展開</li> </ul>
(2) 1,000万人の外国人旅行者を迎え入れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新たな文化拠点や豊かな水辺空間などが、東京の魅力として世界に発信され、<b>年間1,000万人の外国人旅行者が訪れる</b>世界有数の観光都市になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京の魅力を発信する新たなエリアとして、<b>上野（文化の森）、豊洲（食の魅力を体感できる賑わい）、臨海部（24時間楽しめる都市空間）</b>等を整備</li> <li>・ 水辺の賑わい創出、舟運ネットワークの形成</li> <li>・ 首都大学東京に新たな観光人材を育成するコースを新設</li> </ul>
(3) 東京が世界のユニバーサルデザインの最先端をリードする	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ユニバーサルデザインのまちづくりが面的に整備され、外国人旅行者を含め、誰もが不自由なく街歩きを楽しむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>10の重点整備エリアを設定し、ユビキタス技術等を活用しながらユニバーサルデザインのまちづくりを推進</b></li> </ul>
(4) 大都市東京の発展を支える産業を重点的に育成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 東京の将来を支える都市型産業（創造的都市型産業）が飛躍的に成長し、新産業分野・新事業の創出などの波及効果により、日本経済を牽引している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境など社会的ニーズの高い<b>社会的課題対応型産業</b>、アニメやファッションなどの<b>情報発信型産業</b>、情報家電（電子デバイス）など三環状道路の開通等を契機として成長が見込まれる<b>都市機能活用型産業</b>を支援・育成</li> </ul>

## 7 意欲ある誰もがチャレンジできる社会を創出する

○ 子どもたちに次代を担う力を身に付けさせ、東京でチャレンジしようとする意欲ある人々に多様な機会を提供するとともに、NPOやボランティアなど多様な活動主体が社会を担うシステムを構築する。

	10年後の東京の姿	これからの政策展開
(1) 次代を担う子どもたちを健全に育成する	○ 基礎・基本の徹底や教員の質の向上とともに、地域と学校とが協働して子どもに多様な体験学習の機会を与えることで、次代を担う若者が育成されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>最低限身に付けるべき内容の指導基準「東京ミニマム（仮称）」の策定、教職大学院制度を活用した実践的な指導力を有する教員の確保</li> <li>社会の一員としての自覚を育む、幼児期から思春期に至るまでの一貫した教育プログラムの構築</li> </ul>
(2) 働き方を自由に選択し、チャレンジできるシステムを構築する	○ 人生のどの段階でもキャリアアップが可能になるとともに、多様な人材が質・量ともに安定的に輩出されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学や大学院に再入学する者を支援する再チャレンジ応援奨学金（仮称）の創設</li> <li>高等専門学校の拡充により、中堅技術者を安定的に輩出し、「東京都テクニカルエキスパート（仮称）」として都が認証</li> </ul>
(3) アジアの将来を担う人材を戦略的に育成・支援する	○ アジアの優秀な人材が、東京で学ぶことでさらなる成長を遂げて各方面で力を発揮するとともに、東京とアジアとの橋渡し役となっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「アジア人材ファンド（仮称）」などの各種支援による受入の促進、「アジア人材バンク（仮称）」による東京とアジアとの人的ネットワークの構築</li> </ul>
(4) 多様な主体が地域の担い手として自ら社会的課題を解決する	○ 社会的企業家（ソーシャル・アントレプレナー）をはじめとする多様な主体が、社会的課題の解決に向けて活躍している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>金融機関等との連携により多彩な融資メニューを提供し、社会的企業家（ソーシャル・アントレプレナー）の創業・運営を資金面からサポート</li> </ul>

## 8 スポーツを通じて次代を担う子どもたちに夢を与える

○ スポーツの振興を通じて競技力の向上と世界の子どもの健全育成に貢献し、生涯を健康的に過ごせる社会を実現する。

	10年後の東京の姿	これからの政策展開
(1) 世界トップクラスの競技力を実現し、世界の次世代育成に貢献する	○ 東京で育ったアスリートがオリンピックや国際的な競技大会などで活躍しているとともに、スポーツを通じて、アジアをはじめとする世界の次世代育成に貢献している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>都独自の「スポーツ・文化振興交流基金」を創設し、国際的イベントやアジアの次世代育成を中心とした「東京版スポーツODA」の展開に活用</li> <li>旧秋川高校を活用した、トップアスリート育成のための中高一貫校を創設</li> </ul>
(2) 誰もが生涯にわたってスポーツに親しめる社会を実現する	○ スポーツ実践層のすそ野が拡大し、元気に走り回れる環境の創出によって、子どもたちがスポーツと近くなり、健やかに成長している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全公立小中学校の校庭を芝生化し、子どもが身体を動かす喜びを味わえる環境を創出</li> </ul>
(3) ボランティア気運を醸成し、活動を活性化する	○ 大規模スポーツイベント等の運営への参加を通じて、東京全体にオリンピックムーブメントが浸透し、都民の中にボランティア精神が満ちあふれている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京マラソン等を契機とした「東京ボランティアバンク（仮称）」への登録など、ボランティアの参加を促進する仕組みを構築</li> </ul>